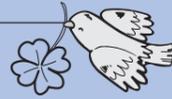


# 学びの 広場

地域で学び、活動する  
皆さんを応援します  
北秋田市教育委員会

- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ



## 英語のお話を聞いてみよう！

高橋美由紀

☎090・4512・1248

アメリカ人と日本人の語り手が、英語と日本語を使い、絵本の読み聞かせ「ストーリーテリング・タイム」を行います。入場は無料です。  
日時 5月20日(土) 10時～10時45分  
会場 市民ふれあいプラザ  
1階ねまーる広場

## 秋田をまなぶ講座シリーズIX

鷹巣図書館 ☎62・3311

放送大学秋田学習センター主催の「秋田をまなぶ講座シリーズIX」が開催されます。  
日時 6月17日(土) 13時30分～15時  
会場 市民ふれあいプラザ  
1階多目的ホール

演題 「秋田を支えた阿仁鉱山」  
講師 今井忠男氏

参加費 無料 定員 60人(先着順)  
(秋田大学国際資源学部教授)

## 長崎邸一般公開と松岡誠三氏の 銘石展示会を開催

鷹巣図書館 ☎090・6101・8906

江戸時代後期、文政18年(1830年)建築で藩主佐竹公の本陣を務めた肝煎り住宅の内部の公開と、松

## 「支援」から「協働」へ

～北秋田市学校支援地域本部事業連絡協議会～

平成28年度北秋田市学校支援地域本部事業の第2回連絡協議会が、3月23日に市民ふれあいプラザで行われました。

この日は、平成28年度の事業報告を行ったほか、秋田県教育庁生涯学習課社会教育主事の松橋亨氏より平成29年度学校・家庭・地域連携総合推進事業についての説明を受けました。

また、参加した学校関係者、地域コーディネーターなど約40人が、これから地域と学校がどのように関わり合っていくか、子どもたちにどう育って

いってほしいかなどの意見交換を行い、それぞれの意見や思いを共有しました。



▲平成29年度の事業について説明を受ける参加者

## 活力ある地域づくりをめざして

～“Gちゃん”サミットin北秋田市パート5～

今回で5回目となる「“Gちゃん”サミットin北秋田市」が、3月26日に市民ふれあいプラザで行われ、約200人が参加しました。

事例発表では、合川小学校の6年生が昨年からの取り組みを始めた「合川小雅香(いぶりがっこ)作り」について、代表6人が紹介したほか、交流ステージでは阿仁パーカッションサークル(近藤一雄代表)による演奏が披露され、参加者も一緒にリズムを取って楽しみました。

また、秋田公立美術大学助手の田村剛氏による

ワークショップでは「語る」をテーマに参加者120人と対話による考察を深めました。



▲合川小学校6年生の発表に耳を傾ける参加者

## 元気いっぱい放課後の遊び場完成！

～「鷹巣小児童クラブ」スタート～

鷹巣小学校プール隣の学校敷地内に建設を進めていた「鷹巣小児童クラブ」が完成し、4月1日からスタートしました。

児童クラブは、放課後の子どもたちの安全な生活と遊びの場を提供し、健全な成長を育むため、開設されています。この児童クラブ棟は、秋田県産の木材をふんだんに使って、木の温かみを肌で感じられる建物となっています。

この日は、児童クラブ棟の建設に携わった古河林業(株)秋田工場から秋田杉を使ったオリジナルの積み

木が寄贈され、子どもたちは早速、木の香りと感触を楽しみながら遊んでいました。



▲寄贈された積み木を使って遊ぶ児童たち

## ふるさとの文化財

### 「旧石器時代編」

2

#### ○搔器(二重鳥A遺跡出土)

これは前回紹介したナイフ形石器とともに旧石器時代後半の特徴的な石器です。素材となる原石・礫から打ち割ったやや厚みのある短冊のような欠片(石刃)の先端(写真では下端)を打ち欠き、丸い刃部を作り出したものです。左端のもので長さ8・8cmです。刃の断面は比較的鈍角となり、対象となるものをかき削る用途が考えられ、搔器の名称が付けられています。スクレイパーと言った方が分かり易いかも知れませんが、主に皮なめしに使われたと考えられ、木や骨製の柄に取り付け、獣の皮の内側に張り付いた脂肪やたんばく質をかき取ったものと想定されます。

石器時代は、腰に巻いた布切れ一つで野山を駆け巡っていたようなイメージがありますが、旧石器時代は氷河期の寒冷な気候下であり、動物の毛皮やなめした革を巧みに縫製し、実用的で機能的な衣服を作っていたものと思われま

また、旧石器時代は、縄文時代のように定住せず、獲物となる動物の群れを追って生活していたと考えられています。搔器を使って加工した皮革を利用し、移動生活に適した生活用具、簡易的なテントの幕なども作っていたのではないのでしょうか。

二重鳥A遺跡では、ナイフ形石器や搔器などと一緒に見つかった黒曜石の分析から、三つの異なる産地の黒曜石が利用されていたことが分かっています。そのうちの一つは、遠く長野県和田峠産である可能性が高いと推定されています。旧石器時代の人々も縄文人と変わらず活動的で広範な繋がりを持ちながら生活していた様子が見え、子ごうか



▲搔器(二重鳥A遺跡出土)

▽紹介者/北秋田市教育委員会生涯学習課文化係